

都市計画家

Planners 104

2024

プランナーズ

104



日本都市計画家協会賞・
官民連携事業特集

日本都市計画家協会賞・官民連携事業特集

- 4 日本都市計画家協会賞について 江田 隆三
- 6 第14回 日本まちづくり大賞
みんなの図書館さんかく 土肥 潤也
- 8 第15回 日本まちづくり大賞
過疎地の未来は自分で創ることも参画まちづくり 中川 敬文
- 10 第14回 優秀まちづくり賞
防災とアートをつなげるまちづくりのプラットフォーム 清水 健太
- 11 第14回 優秀まちづくり賞
足立区千住地域における空き家利活用とエリア再生 “せんつく”の取り組み 青木 公隆
- 12 第14回 優秀まちづくり賞
参加型まちづくりコミュニティ／まちをみんなでつくる machimin 手塚 純子
- 13 第15回 優秀まちづくり賞
鹿嶼で持続可能な「まち事業」を実践しながら地域づくりを考える 済藤 哲仁
- 14 第15回 優秀まちづくり賞
歴史的建造物復原による気仙沼市内湾地区の復興まちづくり 和田 裕子
- 16 JSURP 地域主体のまちづくり推進事業の概要 内山 征
- 18 事例1 鹿児島県薩摩川内市 川内駅周辺～市役所周辺地区
市民主体のまちづくりにおける「市民とは誰か」から始まるまちづくり 田尾 友輔
- 20 事例2 茨城県日立市 日立駅周辺地区
地域主体の歩きたくなるまちなかづくりに向けて 朽津 秀治
- 22 事例3 静岡県静岡市 小島地区
旧小島生涯学習交流館跡地の市民協働による活用プロジェクト 渡辺 昌教
- 24 事例4 神奈川県大和市 つきみ野地区
高齢化が進んだ郊外住宅地での住民主体のまちづくりについて 佐藤 知明
- 26 特別寄稿 **中南米地域に対する長年の“区画整理”国際協力の成果** 吉原 信一
- 28 特別寄稿 **中南米都市・地域計画家協会(ALPU)との交流のスタート** 小林 英嗣
- 30 支部だより
- 31 事務局 NEWS

日本都市計画家協会賞

日本都市計画家協会賞について

江田 隆三

JSURP 副会長／株式会社地域計画連合



1 日本都市計画家協会賞とは

日本都市計画家協会賞は、全国の都市や地域で実践されている様々な分野やテーマの「草の根まちづくり活動」を応援し、優れた理念や活動を全国に発信・波及することを目的にしている。

2003年にスタートし当初は毎年実施し、2011年からは隔年実施として、2023年で16回、受賞団体は138団体を数えている。

当初は部門に分けて表彰していたが、最も優れた団体活動を「日本まちづくり大賞」として表彰している。

「まちづくり」に関連する表彰制度で、民間を主とするまちづくり活動を対象に、NPOである協会が審査料無料で賞金有という仕組みが特徴である。

2 協会賞の募集と審査

募集する活動は、都市や地域の現場に根ざした住民主体あるいは多様な主体の協働によるまちづくりの実践活動を対象とし、その実行母体の団体を表彰している。

まちづくり活動の分野や活動団体の形態(住民組織、任意団体、NPO法人、社会的企業、公共団体、大学や学校等)は問わないが、地域の住民が参加していることが条件である。

近年は地域を問わない「優秀まちづくり賞」と当協会の支部が置かれている地域で優れた活動を実践している団体を表彰している。

賞の審査は3段階で、書類審査だけでは判らないことがあるので、JSURP会員が訪問し、事前評価を行う。さらに、会員の学識者等5名で構成する選考委員会で優秀まちづくり賞、支部賞を選定する。受賞した団体の中から、全国まちづくり会議の中でプレゼンテーションをしてもらい、最も優れた活動を実践している団体を「日本まちづくり大賞」として表彰する。

審査は事務局と役員四役が担ってきたが、審査に相当の時間がかかることや、さらに公平性を高めるために、事務局とは別に選考委員会を設け審査することにした。

なお、賞金総額は30万円である。

3 受賞団体の変化

これまでの受賞活動、団体の変化の特徴を整理した。

・活動団体の多様化

〇〇地区まちづくり協議会という任意組織やNPOが多くを占めるが、近年では、空き家の改修等からまちづくりへのインパクトをめざす、少人数の活動も増えている。小さな規模で始めて地域に大きな影響を与えるような団体である。この場合、活動のコアが強力でその応援団が柔軟に組織化されている。

・活動内容の多様化

公共空間の活用、改善さらに街並みの維持保全という対行政との関係で地区の環境改善を行うのみならず、特定の人々への居場所の提供や、子どもを交えたボランティア活動など、まちづくりを通じて社会課題を解決する活動団体がみられる。

・民間公益活動を行う企業の増加

エリアマネジメントの広がりとともに、それを担うプレイヤーとして民間企業の活動が増えているため、企業を表彰することも増えている。

今回、寄稿をいただいた「日本まちづくり大賞」を受賞した団体、(一社)トリナスは静岡県焼津市で空き店舗を「みんなの図書館」として運営する活動であり、(株)イツノマは宮崎県都農町において、中学生を主とするまちづくり教育の実践である。

優秀まちづくり賞団体の寄稿は、伝統のある下町墨田区の向島学会、足立区千住で空き家改修のリノベを実線している団体であり、(株)WaCreationは千葉県流山市で子育て関連の多様な居場所づくりを行っている。まちづくり鹿嶋(株)は都市再生法人であるが、ユニークな活動を実践しているし、風待ち研究会は宮城県気仙沼市で被災した文化財建物の再生に取り組んでいる専門家集団である。

4 課題と今後

公募期間として3か月を確保し、応募書類を書式A4-3枚として簡素化を図っているが、まだ周知ができていない。応募数が少ないのが課題と考えている。

今後も賞の対象、募集・審査方法の工夫を行い、多くの団体にチャレンジいただくことを期待したい。

東北

岩泉町だれでもフォトグラファーチーム	岩手県下閉伊郡岩泉町	2017 優秀まち賞
(株)キャッセン大船渡	岩手県大船渡市	2017 日本まち大賞+優秀まち賞
浦浜・泊地区連絡協議会まちづくり委員会	岩手県大船渡市	2021 全まち特別賞
甫瀬まちづくり委員会	岩手県大船渡市	2021 全まち特別賞
山形蔵プロジェクト実行委員会	山形県山形市	2005 学生まち賞
学生まちづくりサミット実行委員会	山形県酒田市	2007 学生まち賞
風待ち研究会	宮城県気仙沼市	2007 教育部門賞
大谷地区振興会連絡協議会・大谷里海(まち)づくり検討員会	宮城県気仙沼市	2021 全まち特別賞
(一社)気仙沼風待ち復興検討会	宮城県気仙沼市	2023 優秀まち賞
(株)街づくりまんぼう・橋通り COMMON	宮城県石巻市	2017 まちづくり業績賞
NPO法人 都市デザインワークス	宮城県仙台市	2006 教育部門賞
新井信幸研究室+あとと長町復興支援ボード	宮城県仙台市	2015 優秀まち賞
玉浦西地区まちづくり検討委員会+	宮城県岩沼市	2015 優秀まち賞+
玉浦西まちづくり住民協議会	宮城県岩沼市	復興まちづくり特別賞
豊間区ふるさと豊間復興協議会	福島県いわき市	2015 全まち特別賞
(株)テゾンチマ	福島県須賀川市	2023 優秀まち賞

中部・北陸

work-waku都留	山梨県都留市	2006 学生まち賞
吉川 美貴	新潟県村上市	2009 教育部門奨励賞
松之山温泉合同会社まんま	新潟県 十日町市	2017 優秀まち賞
NPO法人まちなか考房	新潟県長岡市	2013 優秀まち賞
NPO法人醸造の町摺田屋まちおこしの会+摺田屋こひ隊・摺田屋地区まちづくり協議会	新潟県長岡市	2013 全まち特別賞
下田高校周辺地域交通環境検討会	静岡県下田市	2009 静岡支部賞
地元の建築家と朝日小学校の子供たち	静岡県下田市	2023 静岡支部賞
NPO法人東海道・吉原宿	静岡県富士市	2005 学生まち賞
遠州横須賀俱楽部	静岡県掛川市	2009 まち奨励賞
静岡県都市住宅部	静岡県静岡市	2004 浜松支部賞
NPO法人フロントニア清津	静岡県静岡市	2010 静岡支部賞
(一社)草薙カルテッド	静岡県静岡市	2023 まちづくり業績賞
(一社)トリナス	静岡県焼津市	2021 日本まち大賞+静岡支部賞
TOSS	静岡県浜松市	2005 教育部門賞
CSN(College Student Network for community service in Hamamatsu)	静岡県浜松市	2005 浜松支部賞
まちのはぴっくり箱だ!! 実行委員会	静岡県浜松市	2006 浜松支部賞
姫街道の松並木を考える会+葵乃銘品工房	静岡県浜松市	2007 静岡支部賞
NPO法人グリーンデータバンク	静岡県浜松市	2008 静岡支部賞
中野町を考える会	静岡県浜松市	2019 静岡支部賞
NPO法人ひとにやさしいまちづくりネットワーク東海+NPO法人ボランタリーネイバーズ	愛知県名古屋市	2008 教育部門賞
テラッセ納屋橋発展会	愛知県名古屋市	2019 優秀まち賞
(株)ナゴノダナバングル	愛知県名古屋市	2023 優秀まち賞
各務原市パークリンジャー	岐阜県各務原市	2008 日本まち大賞
グランドプラザネットワーク+	富山県富山市	2009 まち奨励賞
グランドプラザ運営事務所		
NPO法人輪島土蔵文化研究会	石川県輪島市	2009 日本まち大賞

関西

NPO法人モスグリーンEco	滋賀県犬上郡多賀町	2011 関西支部賞
(財)京都府建築士会	京都府京都市	2004 教育部門大賞
NPO法人心界隈まちづくりネット姉小路界隈を考える会	京都府京都市	2007 日本まち大賞
梅津まちづくり委員会	京都府京都市	2009 関西支部賞
六原まちづくり委員会	京都府京都市	2015 日本まち大賞+優秀まち賞
阪急電鉄(株)	京都府京都市	2021 まち奨励賞
船場アートカフェ+集英連合高麗橋2丁目振興町会	大阪府大阪市	2010 関西支部賞
本町のまちづくりを考える会	大阪府岸和田市	2008 関西支部賞
じない市実行委員会	大阪府富田林市	2007 関西支部賞
兵庫県立龍野実業高等学校デザイン科	兵庫県たつの市	2008 生徒まち賞
はりまデザインード	兵庫県加古郡播磨町	2011 優秀まち賞
湖山池地連携懇談会	鳥取県鳥取市	2003 若手まちづくり部門賞
鹿野の風プロジェクト	山口県周南市	2021 まちづくり業績賞
「鹿野の風」	山口県周南市	2015 優秀まち賞
医療法人社団和鳳会	香川県三豊郡山本町	2003 まちづくりプロジェクト部門大賞

九州

高見三条街並み協定委員会	福岡県北九州市	2019 日本まち大賞+福岡支部賞
福岡市赤煉瓦文化館「誕生100年祭」市民の会	福岡県福岡市	2009 福岡支部設立記念賞
やまさか暮らし研究会	福岡県福岡市	2011 日本まち大賞+優秀まち賞+福岡支部賞
唐津街道姪浜まちづくり協議会	福岡県福岡市	2013 日本まち大賞+福岡支部賞
樋井川流域治水市民会議みんなの雨庭つくり隊	福岡県福岡市	2015 福岡支部賞
糸島空き家プロジェクト	福岡県福岡市	2017 福岡支部賞
NPO法人FUKUOKA デザインリーグ	福岡県福岡市	2017 まちづくり業績賞
森田一義(タモリ)	福岡県福岡市	2018 日本都市計画家協会賞福岡特別賞
津屋崎千軒 海とまちなみの会	福岡県福津市	2010 福岡支部賞
熊本県荒尾市農林水産課	熊本県荒尾市	2007 まち奨励賞
上熊本駅舎を活かしたまちづくりの会	熊本県熊本市	2008 まち奨励賞
熊本大学工学部まちなか工房	熊本県熊本市	2009 日本まち大賞
(株)イツノマ	宮崎県児湯郡都農町	2023 日本まち大賞+優秀まち賞

北海道

NPO法人映像コミュニケーションズ	稚内市	2004 学生まち賞
釧路市大衆毛氷づくり協議会	釧路市	2006 北海道支部賞
くしろ橋南北ゆめこい俱楽部	釧路市	2011 優秀まち賞
十勝場所と環境ラボラトリー	帯広市	2004 市民・NPO部門大賞
TOKACHI ICE PARK実行委員会	帯広市	2019 北海道支部賞
北海道音更高等学校	河東郡音更町	2010 学生まち奨励賞
team Makura showcase	幕別町	2021 北海道支部賞
(一社)NORTH ReDESIGN	幕別町	2023 北海道支部賞
NPO法人アートチャレンジ滝川	滝川市	2005 日本まち準大賞+北海道支部賞
江部乙丘陵地のファンクラブ	滝川市	2011 日本まち大賞+優秀まち賞
NPO法人コミュニケーションズ	樺戸郡月形町	2015 北海道支部賞+審査員特別賞
NPO法人さっぽろ村コミュニティ工房	札幌市	2003 北海道支部賞
モエレ沼公園の活用を考える会	札幌市	2006 北海道支部賞
稲穂おやじの会	札幌市	2008 北海道支部賞
学生と地域で考えるまちづくり会	札幌市	2008 北海道支部賞
AMAサポートーズ俱楽部	札幌市	2009 北海道支部賞
NPO法人公園ねっとわーく	札幌市	2010 北海道支部賞
さっぽろキヤンドルナイト実行委員会	札幌市	2017 北海道支部賞
NPO法人ゆうべあまちづくりネットワーク	苫小牧市	2011 北海道支部賞
飛生アートコミュニケーションズ	白老町	2013 優秀まち賞
伊達市立有珠中学校	伊達市	2004 北海道支部賞
白鳥大橋ハッピープロジェクト	室蘭市	2007 北海道支部賞
輪西地区活性化推進協議会	室蘭市	2013 北海道支部賞
アートフェスハコトリ実行委員会	函館市	2009 北海道支部賞

関東

とちぎ市民まちづくり研究所	栃木県宇都宮市	2006 まち奨励賞
問屋町まちづくり研究会	群馬県高崎市	2005 日本まち大賞
笠間町まちづくり教室	茨城県笠間市	2006 まち奨励賞
まちづくり鹿嶋(株)	茨城県鹿嶋市	2023 優秀まち賞+全まち特別賞
NPO法人茨城NPOセンターCOMON'S	茨城県常総市	2023 優秀まち賞+全まち特別賞
龍ヶ崎まいんコロッケ	茨城県龍ヶ崎市	2008 まち奨励賞
木下まち育て塾	千葉県印西市	2013 優秀まち賞
NPO法人安房文化遺産フォーラム	千葉県柏市	2013 優秀まち賞
柏の葉サイエンスエディションラボ	千葉県柏市	2013 優秀まち賞
東京理科大学理工学部建築学科渡辺一	千葉県野田市	2005 教育部門賞
都市計画研究室	千葉県流山市	2021 優秀まち賞
株式会社WaCreation/machimin	埼玉県戸田市	2010 日本まち大賞
NPO法人まち研究工房「おやすみ処」	埼玉県戸田市	2010 日本まち大賞
ネットワーク・ショップ		
週刊まちづくり編集部	埼玉県所沢市	2003 まちづくり普及啓発部門大賞
川越一番街商業協同組合町並み委員会	埼玉県川越市	2003 まちづくり計画手法・制度部門大賞
おがの路地まち研究会	埼玉県秩父郡小鹿野町	2011 優秀まち賞
UIFA JAPON	東京都千代田区	2021 まちづくり業績賞
みちくさくらす	東京都新宿区	2019 優秀まち賞+全まち特別賞
NPO法人上野の杜芸術フォーラム	東京都台東区	2007 まち奨励賞
NPO法人 向島学会	東京都墨田区	2021 優秀まち賞
NPO法人燃えない壊れないまちすみだ支援隊	東京都墨田区	2021 優秀まち賞
豊洲地区運河ルネサンス協議会	東京都江東区	2019 優秀まち賞
多摩川アートランプロジェクト実行委員会	東京都大田区	2010 審査員特別賞
(株)チームネット、(有)HAN環境・建築計画事務所、(株)リブラン	東京都世田谷区	2004 まちづくりプロジェクト部門大賞
下北沢リンクバー	東京都世田谷区	2023 まち奨励賞
世田谷線とせこか1を良くする会	東京都渋谷区	2008 まち奨励賞
千住 Public Network	東京都足立区	2021 優秀まち賞
堀切地区まちづくり推進協議会	東京都葛飾区	2019 優秀まち賞
NPO法人AKITEN	東京都八王子市	2017 優秀まち賞
府中建築文化フォーラム	東京都府中市	2008 審査員特別賞
桜美林大学と市民の協働プロジェクト	東京都町田市	2007 教育部門賞
小山田 桜台 まちづくり協議会	東京都町田市	2021 優秀まち賞
玉川学園地区まちづくりの会	東京都町田市	2021 まち奨励賞
東京海上跡地から大学通りの環境を考える会	東京都国立市	2003 コミュニティまちづくり部門大賞
山手まちづくり推進会議	神奈川県横浜市	2006 日本まち大賞
和田町タウンマネジメント協議会	神奈川県横浜市	2007 神奈川支部賞
湘南郷園文化祭連絡協議会	神奈川県横浜市	2009 審査員特別賞+横浜支部賞
環境サークルKOOGA(クーガ)	神奈川県横浜市	2010 学生まち奨励賞
横浜都市再生推進協議会	神奈川県横浜市	2013 横浜支部賞
NPO法人 Connection of the Children/CASACOプロジェクト	神奈川県横浜市	2017 全まち特別賞+横浜支部賞
一本松まちづくり協議会	神奈川県横浜市	2017 優秀まち賞
まち保育研究会	神奈川県横浜市	2021 神奈川支部賞
NPO法人葉山環境文化デザイン集団	神奈川県三浦郡葉山町	2006 横浜支部賞
旧モーガン邸を守る会	神奈川県藤沢市	2007 神奈川支部賞
ふじさわどもまちづくり会議実行委員会	神奈川県藤沢市	2009 教育部門賞
鶴沼の緑と景観を守る会	神奈川県藤沢市	2010 横浜支部賞
街づくり制度改革タスク・フォースほか	神奈川県小田原市	2008 横浜支部賞

※誌面の都合上、下記の賞の名称を省略して掲載しています

日本まちづくり大賞	日本まち大賞	学生まちづくり部門賞	学生まちづくり賞
日本まちづくり準大賞	日本まち準大賞	学生まちづくり部門奨励賞	学生まち奨励賞
優秀まちづくり賞	優秀まち賞	まちづくり教育部門賞	教育部門賞
全国まちづくり会議特別賞	全まち特別賞	まちづくり教育部門奨励賞	教育部門奨励賞
まちづくり奨励賞	まち奨励賞	まち奨励賞	まち奨励賞

第14回 日本まちづくり大賞

みんなの図書館さんかく

土肥 潤也

みんなの図書館さんかく



みんなの図書館さんかくは、静岡県焼津市の駅前通り商店街の空き店舗を活用し、開設した小さな私設図書館です。小さな取り組みではありますが、地方の商店街から市民参画による「私設公共」のモデルづくりに取り組んでいます。

いま日本は大きな人口減少の中にあり、今後の将来も人口が増える見通しはありません。人口が減れば税収が減り、税収が減れば、これまで当たり前だった行政サービスを維持し続けることが難しくなります。

すでに学校をはじめ、公共施設の統廃合が進んでおり、何を残して、何を無くすのかを今すぐに決めなければいけないフェーズまで来ている自治体もあります。まちづくり業界では、「市民参加」や「市民協働」という言葉がよく使われますが、市民が自分達のまちを自分達でつくっていく「市民自治」のまちづくりが求められています。

こうした問題意識を背景に考えたのが、市民参画による新しい公共「私設公共」のコンセプトです。スローガンは「楽しく、無理なく、続けられる」で、たくさん儲かるわけではないけど、きちんと経済的な自立もできて、かつひとりだけに負担がかかりすぎないような運営システムを目指しています。

その社会実験のひとつとして取り組みはじめたのが、「みんなの図書館さんかく」(以下、さんかく)です。なぜ図書館だったかというと、単に自宅の本棚が溢れて大変だったという理由で、深い理由があったわけではありません。自宅の本棚を拡張するようなイメージで、活動をスタートさせました。



さんかくは、三角形ではなく「参画」からきていて、まちの人々がこの場所に参画し、最終的にまちに参画する拠点になってほしいという思いで名付けました。参画の仕組みで大きな特徴は、一箱本棚オーナー制度と呼ばれるシェア図書館の仕組みを導入していることです。

一箱本棚オーナー制度とは、月額料金を支払うとマイ本棚を持つことができて、自分の思い思いの本を図書館の中に並べることができるシステムです。つまりは、お金を払って人に本を貸す仕組みで、さんかくの場合は月額2,000円で本棚オーナーになることができます。

「本棚オーナーには何かメリットがあるの?」とよく聞かれますが、金銭的なリターンは一切ありません。でも、本棚ひとつひとつが自己表現のボックスになっていて、自分が表したい世界観を世の中に発信したり、本を通じて誰かと繋がることができるようになっています。

例えば、好きな作家さんの本だけを並べる人もいれば、温泉好きで温泉に関わる本を置く方、動物愛護活動をされている方は動物に関わる本を置かれたりもしています。本棚オーナーは想像以上の人気で、当初の予定の30棚が3ヶ月でキャンセル待ちになり、現在は約60棚が契約されています。

本棚は郵便ボックスのような機能も果たしていて、共通の関心を持つ本棚オーナーを見つけて、「この本棚オーナーさんとお友達になりたい!」という人がお手紙を届ける姿もあります。本の裏には感想カードが差し込まれていて、借りた本を読んだ人が次々に感想を書き込むこともできるようになっています。デジタル時代にあえてアナログのコミュニケーションができるのもさんかくの特徴です。

また、お店番の仕組みもさんかくを支える重要な仕組みです。さんかくでは、本棚オーナーになるとお店番をする権利を得ることができます。月1回からお店番ができます。「お金を払わせて、お店番もさせるなんてひどいな」と、冗談で言われたこともましたが、

さんかくでは月額を払う本棚オーナーが進んでお店番もしてくれています。

ただお店番をするだけでなく、さんかくの入口の一区画はチャレンジショップになっていて、お店番をしながらお店が開業できるようになっています。週3日コーヒースタンドを営むデザイナーさんもいれば、月1回コーヒーショップに取り組むサラリーマン、お茶の美味しさを知ってほしいとお茶スタンドをやられている方もいます。

単純計算で月2,000円の本棚オーナーが60人いると、月額12万円の売上になります。そこから家賃と水道光熱費などを支払っていくと、手元に残る分はほとんどありません。

さんかくが開館したのは2020年3月で、あと半年ほどで丸5年です。はじめた頃は、「私設図書館なんてうまくいくわけがない」と、批判的な声をもらうことも多くありました。しかし、今では全国各地から「うちのまちにもこんな図書館をつくりたい！」と、視察が殺到する場所になっています。

ありがたいことに同様の仕組みの私設図書館は徐々に増えていき、現在では全国90館（開館準備中も含む）にもなっています。このように一箱本棚オーナー制度を導入したシェア図書館のことを「みんなとしょ」と名付け、ネットワークも広げています。

さんかくの第二プロジェクトとして、同じ商店街の中で私設公民館づくりに取り組みはじめました。私設公民館は「みんなの公民館まる」（以下、まる）と名付け、子ども・若者がまんなかの公民館づくりがスタートします。たまたまさんかくの目の前の物件が売りに出ることになり、その物件を購入し、現在リノベーションをしています。

実は「まる」の構想はさんかくをはじめる前から持っていたものでした。遡ると私達の商店街での活動は、「若者ぶらっとホームやいばる」（以下、やいばる）と呼ばれる中高生世代の居場所施設から始まっています。やいばるは、焼津市役所からの委託で運営してい

た若者地域交流拠点で、「地方創生」のひとつの動きとして2017年頃からはじまったものでした。

小さな施設ではありましたが、地元の中高生世代を中心に、地域と繋がる拠点となっていて、準備期間も含めて3年近く運営をしてきた中で、コロナ禍がやってきて、市との協議の上で閉鎖ということになってしましました。今思えば、続けられる方法は色々とありましたが、一度閉鎖と決まってしまうと続けていくための財源確保は難しく、大人都合で子ども・若者の居場所をなくしてしまったことは今でも悔やまれることです。

そして、受託事業や補助事業は、どうしても外的要因に左右されてしまうことも肌で感じ、さんかくのように民設民営で子ども・若者の居場所づくりに取り組めないかと考え、新しく挑戦することにしたのが「まる」です。

「集まる、はじまる。まる。」をキャッチフレーズに、子ども・若者が集まり、何かが始まっていく拠点を目指しています。まるは2024年秋頃にオープン予定で、現在準備をしているところです。さんかくと合わせて、ぜひ訪問いただければと思います。



第15回 日本まちづくり大賞

過疎地の未来は自分で創る こども参画まちづくり



中川 敬文

株式会社イツノマ

団体の概要

株式会社イツノマは、人口1万人の過疎地、宮崎県都農町を本拠地とする2020年創業のまちづくりベンチャーです。

「人からはじまる、まちづくり」をミッションに、子どもが参画するまちづくり、地方で新しいコトを起こす人が出来る場づくりを目指しています。

イツノマ代表の中川は、キッザニア東京の立ち上げやMUJI HOTELなど、建物の企画・設計・運営をする、まちづくりの会社(UDS)を、20年間経営してきました。2020年に社長を退任し、グランドデザインづくりでご縁のあった都農町へ移住、起業しました。

現在は、まちのグランドデザイン、小中学校の総合・探究学習、まちづくりホステルの経営など、小さな町の小さな会社ならでは、ジャンルを問わず多種多彩なプロジェクトに挑戦しています。

都農町の課題

都農町は、宮崎県の中心に位置する人口が約1万人の過疎地域で、高齢化率は全国平均を10%上回る39%です。人口推移の予測は、右肩下がりです。

具体的に、2024年3月に卒業する小学6年生の人数は89人ですが、10年後、そのうちの何人が都農町に住み、都農町で働いているでしょうか。

ちなみに、今28歳の学年は110人いますが、現在、都農町在住で働いているのは、5人のみです。

過疎地域に、未来はあるのでしょうか？

Uターンしたくなる、まちづくり

「Uターンしたくなるまち」が、イツノマの目指すまちづくりです。今の都農町の課題は、「仕事がないこと」と「まちがつまらないこと」です。子ども達が自分で仕事をつくれるようになる、自分でまちを変えられるようになるための手伝いをしたいと思い、イツノマができるとして、キャリア・起業教育とまちづくり教育を重ねるという提案を都農町にしました。

しかしながら、民間のヨソ者が教育現場に入るのは、簡単ではありませんでした。

町長、教育長、校長に直談判して、学校の先生と話し合いを重ねながら、4年間実践してきた活動が「こども参画まちづくり」です。

「こども参画まちづくり」の4つの活動を、ご紹介します。



1つ目は、「つの未来学」です。

都農中学校の総合学習として、イツノマが各学年で年間24時間の授業を担当させていただき、まちづくりをテーマに探究をしています。



つの未来学 | 年間24時間/各学年、まちづくりをテーマに探究

イツノマが都農町に提案したグランドデザインのアクションプランから、興味のあるテーマを、中学生に自分で選んでもらいます。各テーマに即した都農町の事業者から直接、その魅力や課題を熱く語っていただきます。その課題に対する解決策を、中学生と一緒に考え、最終的に町長や教育長に直訴します。

このプログラムの様子は、2023年度にNHK宮崎で8分半を超える特集を組んで放映していただきました。インタビューを受けた中学生は、「直接、自分達のまちを、自分達で考えられるのはいいなと思う」と、自分の言葉で話してくれました。

中学生から町長へ気候変動対策アイデアを提案

2021年、気候変動対策アイデア300個を中学生が考えて、町長に提案しました。

それに対して、町長は、「都農町ゼロカーボンタウン宣言」を表明しました。中学生は、「私達の出した案が、都農町の社会に影響ってすごくない!?'と感激していました。

こういった思いや体験をひとつひとつ増やしていくことが、「つの未来学」の目標です。

活動②ゼロカーボンを推進する小中学生チーム「Green Hope」

2つ目は、「Green Hope」で、ゼロカーボンタウン宣言を具現化するチームです。2050年、ゼロカーボンの当事者は、今の子ども達です。

そのため、子ども達が政策を提言する、「ゼロカーボンU-18議会」を、都農町に創設しました。



毎週水曜日に2時間の話し合いを行って、「花とみどりを植える」という政策を決定し、都農町の花のお世話をしています。

2022年3月の議会では、全議員、町長に「花とみどりを植える」政策を提言し、翌年の3月には商店街の空き地への植栽費として、100万円の予算を獲得しました。

活動③商店街活性とCO2削減を目指す「みちくさ市」

3つ目は、「みちくさ市」です。

ご紹介したゼロカーボン政策を具現化するためのイベントです。

きっかけは、「Green Hope」の小学生と、商店街住民のワークショップでした。

「花とみどりで商店街を元気にしよう」と、子ども達が名付けた、「みちくさ市」という名前のイベントが商店街の空き地で始まりました。

これを受け、中町自治会長は、「寂しかった商店街に人が集まり、多世代が交流してくださって嬉しい、ありがたい」と、全面的に応援・協力してくださっています。

「みちくさ市」では、具体的に、スイートピー1,000本のフラワーアートを皆で作ったり、都農町初の「道路アート」で、道路に大きな木(つの未来ツリー)を描いたりしています。

夜市も開催し、子ども達はトラックをスクリーンにした映画を楽しみ、大人達は「都農ワイン」を飲んで楽しめます。

活動④全国初!? 中学生が部活で起業体験「まちづくり部」

4つ目は、中学生の部活として全国初であると自負している「まちづくり部」です。

きっかけは、「つの未来学」で、まちづくりに興味を持った中学生と、もっとアクションを起こしたい、起業体験もしてもらいたいという思いで、部活を立ち上げました。

現在、部員は6人で、部室はイツノマのオフィスです。

目下の関心事は、「稼ぐこと」です。「みちくさ市」では、オリジナルジュースを出店し、売上11,600円でした。

ただ、少し経費がかさんでしまい、若干の赤字となってしまいました。挽回を期して、2回目は利益率の高いわながしの出店に挑戦し、見事4,314円の利益を上げることに成功しました。



とができました。

東京からサントリーのSDGsご担当の方がいらっしゃった際には、サーキュラーエコノミーの事業アイデア出しを共に行いました。

過疎地ゆえに、なかなか出会えない町外の大人とも積極的に交流してもらおうと考えています。

町内の小中学校でまちづくりの授業増枠へ

過疎地だからとあきらめずに、子どもの可能性を広げることが、「まちの未来」に繋がると確信しています。



都農町の人々が活用をあきらめていた空き地も、月1回、約500~700人が集まるようになりました。

「こども参画まちづくり」を過疎地域へ横展開

現在、過疎地域は、全市町村数の5割を超えてます。

過疎地域を中心に、「こども参画まちづくり」を、横展開していきたいと考えています。

そのため、地方自治体や教育委員会、企業版ふるさと納税といった様々な形のご支援をお願いしたいと思っております。

都農町で働きたいと思えるまちづくり

最後に、宮崎大学医学部で行った、まちづくりの講義について、ご紹介させてください。

医学生のうち1人だけ、都農町出身の方がいらっしゃいました。

「都農町がいやで、中学から町外の学校に通っていましたが、本日の話を聞いて、現在の都農中学校であれば通ってみたいと思いました。医師免許を取得したら、都農町で働きたいです！」と、力強い言葉を頂きました。

このような言葉を、一人でも多くの方から頂くことがイツノマのミッションであると考えて、頑張って取り組んでいきたいと思っております。

都農町の子ども達に、ぜひ、会いに来てください。

第14回 優秀まちづくり賞

防災とアートをつなげるまちづくりの プラットフォーム

清水 健太

NPO 法人向島学会／早稲田大学



活動概要

NPO 法人向島学会は、東京の下町・向島エリアの個性ある街並みや産業、コミュニティに息づく新旧の文化など、地域資源の持つ魅力を大切に活かしながら、活気がみなぎる暮らしやすいまちをつくることを目標に、2002年に活動を開始しました。地域住民、まちづくりの専門家、アート関係者、学生等多様なメンバーが参加しています。

優秀まちづくり賞受賞後の活動について

受賞翌年の2022年に、理事会の世代交代を行いました。若手のメンバーを中心に、これまでの活動の経験と実績を踏まえつつ、新たな活動に挑戦しています。

例えば、優秀まちづくり賞を戴いた際に掲げたテーマ「防災とアートをつなげるまちづくりのプラットフォーム」に直結した活動として、2022年から「防災アートプロジェクト大賞展」を実施しています。「防災アートプロジェクト」とは、すみだ向島地域の解決すべき防災課題を魅力的な個性として捉え直し、表現することです。第2回目となる2023年度は、台湾で活動するアーティスト呂文(Lu Wen)さんによる、縁

日をイメージした輪投げゲームを中心とするインスタレーション作品の展覧会が行われました。災害にまつわる動物がモチーフの張子作品が並ぶ輪投げゲームを楽しみながら、防災への理解を深めることができました。

さらに、団体設立当初から力を入れている地域情報のアーカイブ活動では、2022年より「向島まちづくり資料館《準備室》」という取り組みを開始しました。墨田区・向島地域で過去に行われてきたまちづくり、アートプロジェクト、防災など様々な活動の記録を収集・保存し、まちづくりの研究や振興を図る「向島まちづくり資料館」の開設に向けた《準備室》です。これまでに、資料の分類・整理やオーラルヒストリーの収集、シンポジウム開催などの活動を行いました。今後は、「白鬚東アパート」を対象にして、活動を本格的に進めていく予定です。



「防災アートプロジェクト」呂文さんの作品。輪投げが成功したら、張子作品やお菓子を持ち帰ることができました。子ども・大人を問わず歓声が上がる、楽しく開かれた作品となりました。



アーカイブ部会の活動の様子

第14回 優秀まちづくり賞

足立区千住地域における空き家利活用と エリア再生 “せんつく”の取り組み

青木 公隆

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教
／株式会社 ARCO architects



足立区千住地域では、空き家の増加を背景に、民間事業者と自治体の協力による公民連携型の空き家利活用や、地域金融機関によるまちづくりファンドの設立など、さまざまな取り組みが行われている。これにより、エリア再生に向けて民間事業者を含む多くの主体が連携し、空き家利活用によるエリア再生が本格化している。

私の建築設計事務所であるARCO architects (ARCO)を中心として、都市部の空洞化が進行する足立区千住地域において、以下の3つの取り組みを通じて、千住地域のまちづくりを推進している。

公民連携型空き家利活用プラットフォームの運営

足立区とARCOが連携して設立した空き家利活用プラットフォームでは、空き家の実態調査や利活用促進コーディネート業務が行われ、2017年にSPN(千住 Public Network)が設立された。現在は、空き家を使って事業を始めたい方の窓口になっており、千住地域において事業をはじめたい方々が増えしていくことが期待される。ご連絡を頂いた方は、「せんつく」でお会いして、実際の空き家活用事例を体感していただきながら、空き家の情報共有を行なっている。

「せんつく」事業の推進

私の事務所が中心となって進めている空き家利活用事例である複合施設「せんつく」の開業(2020年)は、空き家所有者と民間事業者のマッチングによって実現した。この施設は、空き家の再生だけでなく、地域住民との交流の場を提供し、木造密集市街地の都市基盤の改善にも貢献している。また、2022年には「せん



せんつく1の夜景（路地に灯りを灯す）

つく2」がオープンし、2024年末には「せんつく3」がオープンする予定である。「せんつく」は、駅から離れた住宅地を中心に活動をしており、商店街の衰退とともに失われている小商いの複合体をつくり、人々の生活のインフラとなることを目指している。

まちづくりファンドの組成と資金的仕組みの構築

2022年3月に、千住地域を対象としたマネジメント型まちづくりファンドが組成された。このファンドは、地域金融機関と民間事業者の連携により実現し、「せんつく2」の開業を支える資金的な基盤となっている。ファンドの継続的な活用のためには、対象となる物件とまちづくりを担う事業者の継続的な発掘と情報の蓄積が必要であり、足立区と不動産事業者、空き家利活用団体が協力してこの取り組みを支えている。まちづくりファンドの検討会議から派生したまちづくり会議は、2020年頃から毎月1回開催し続けており、千住地域の活動を支える非常に重要な情報共有の場として機能している。



せんつく2 (2022年12月開業)

今後の展望と結論

千住地域におけるこれらの取り組みは、相互に補完し合い、エリア再生を持続的に実現するための仕組みを構築している。今後の計画として、千住地域での「せんつく」で蓄積される知見を基に、「せんつく」を20年で10拠点をつくることを目指している。この活動を通じて、空き家利活用や地区再生に関するノウハウの構築と共有を進め、千住地域における空き家利活用の推進とともに、他の地域でも展開可能な汎用的な手法を確立していく考えである。

第14回 優秀まちづくり賞

参加型まちづくりコミュニティ／ まちをみんなでつくる machimin

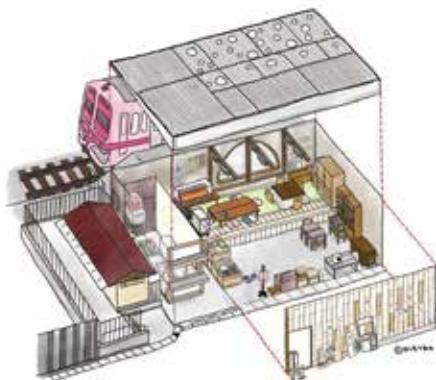
手塚 純子

株式会社 WaCreation



共働き子育て世代の転入者が多い千葉県流山市では、特に地元の高齢者との繋がりや交流の機会が十分ない状況だった。そんな中立ち上がったのが株式会社 WaCreation。

「地域の課題は暮らしの課題であり、多世代多様な住民の数だけ地域の課題がある。それぞれの『好き』や『得意』を活かしながら、自分の『やってみたい』と地域の課題とを組み合わせ、みんなと一緒に取り組むことで様々な解決が進むはず。自分達の手で実感値をもって暮らしや地域をよくしていくことは、幸福感に繋がるのではないか。」という仮説を持ち、machimin（「まち(machi)をみんな(min)でつくる」を「machimin」と略称）を開設。



自分の『やってみたい』に向き合っているうちに、気づけばまちづくりに参加しているという体験が起きる
「参加型のまちづくりコミュニティ」

具体的な取組

多世代交流スペース兼観光案内所 machimin1は、旧市街地にある流鉄線流山駅の元タクシー倉庫を改装したおばあちゃんの家のような縁側。どんな人とも会話しやすいように周辺の方々から持ち寄られたレトロな家具や昔のおもちゃ等を置くとともに、『好き』や『得意』を活かせる多種多様のイベントを開催。（例：流山市特産のみりんを用いたお菓子作り、廃材を活用した雑貨づくり及び流鉄のグッズ作り等）

子どもがやることも食堂 machimin2は、machimin1ほどオープンではない環境を求める方向けで、食を通じて気軽に交流できる場を創りたいとの想いの下、空き家を活用し、平日昼間のこども食堂を開催。学校に足が向きづらい小学生らや、子どもをサポートしたい

と考える近隣のお年寄り達と、フードバンクの食材や庭で栽培した野菜を活用した献立をスタッフと一緒に考え、調理する取組。自分で料理ができるようになる、人に喜んでもらうといった経験を楽しめる他、夏祭りイベントを自主企画で行ったり、寄付や助成金に頼らない運営をしたいと雑貨作り・販売を行う。保護者にとっても、食事をきっかけに交流が生まれることで同じような悩みを持つ親同士で相談し合える。また、多様な人が集まるからこそ、その人にとって適切な人に繋がれることも自然と起きる。

他に、machimin3（市内の田んぼ・収穫後の空き農地を活用した場）及び machimin4（市内の公園でのプレーパーク活動）がある。

具体的な活躍や展開

地域住民らは machiminで活動する中で自分に向き合うこととなり、自らの『やってみたい』を市内各所で実践し、地域活動は増えている。イラストレーター、Webデザイナー、料理研究家などフリーランスとして独立・創業する人が後を絶たない。他にも、専業主婦で就業経験がなかったある住民が、machiminでの経験により自分に自信を持てるようになり、保育関係の仕事をしたいと考え、保育士の資格を取得、市内保育所で勤務。また、ある育児休業中の住民が、machiminでの触れ合いを通じて、福祉の仕事をしたかったという気持ちに気づき、社会福祉士の資格を取得、市内デイサービスで活躍。さらに、居場所づくりに关心を持つ住民が、週2回程度のプレーパーク（子どもの遊び場）を市内で開催、気軽に子育てに関する経験や知識を共有できる場を創っており、どれも継続している。

1拠点を1名で始めた18年4月、20年12月に4拠点約60名まで増えたのち、卒業したり事業を自分のものとして独立したり、それぞれの進化の結果として22年12月に拠点は1つに戻った。24年7月より流山市の福祉事業受託（重層的支援体制整備事業）、同時に茨城県つくば市でも地域活性化人材育成事業を受託、新たな展開が始まる。

第15回 優秀まちづくり賞

鹿嶋で持続可能な「まち事業」を実践しながら地域づくりを考える

～みんな違って、それがいい。「ワクワク」があるまちを創造する。～

済藤 哲仁

まちづくり鹿嶋株式会社／合同会社かたちつくり研究所



1) 団体紹介

鹿嶋の中心市街地は、かつて鹿島神宮の門前町として経済活動の中心であったが、モータリゼーションによるロードサイド商業の集積が進み、徐々に空洞化した。

この状況を開拓するため鹿嶋市を始めとする6者が出資して、まちづくり鹿嶋株式会社を2018年4月に中心市街地活性化基本計画の実施組織として設立した。社長には地元のリーダーが就任し、半年後から公募により採用されたタウンマネージャーが専門家として加わり、自走可能な会社を目指してまち事業を模索した。

市の補助金が無くなる3年目の年度末に収益事業へ舵取りするため株主を12者とし、5,000万円まで増資を行い、まち事業のひとつひとつの仕組みづくりに努める。

2) 日本都市計画家協会賞への応募

私達が活動を始めた当初は、地域の方々からマスター プランを求められたが、ここのまちづくりの正解が全く分からなかった。そこで地域課題と地域資源を洗い出し、アイデアを出しながら数多くの企画を検討している中で、権利調整・お金・人・機会などの条件が整ったまち事業をひとつひとつ素早く確実に実施してきた。

中心市街地での活動4年目にして、いくつかのまち事業の経験を踏まえ、2022年3月にはもう一度現代に合うような小売り店舗の可能性を見極める「鹿嶋マルシェ構想」を未来ビジョンとして掲げた。その後、活動を継続しながら地域に広げて観光をテーマにした「鹿嶋観光まちづくり物語」を2024年3月に策定した。

活動6年目に私たちの活動を振り返る意味で、外の方々がどのように活動評価するのかを確認するために日本都市計画家協会賞へ応募し、プレゼンテーションの結果、光栄にも全国まちづくり会議特別賞をいただけた。

3) 私たちのまちづくり活動の未来ビジョン

流行や政治に流されず、地域課題の解決と地域資源を活用した地域づくりをひとつひとつ自立した仕組みとして構築し、地域外からの収入を地域内で循環させる活動を積み重ねる。まちづくりとは、最終的に地域の人づくりであり、他力本願でまちは楽しくならないことを知る。

4) まちづくり鹿嶋の“まち事業”

①鹿島神宮周辺地区中心市街地活性化事業

鹿嶋市中心市街地基本計画の数値目標達成を視野に、住民が活性化を実感する活動を行う。



②まちイベ「日本博 in 鹿嶋」「Meet to Art」

鹿嶋が誇る文化芸術の魅力が一堂に会する「日本博 in 鹿嶋」。

鹿嶋がアートで湧くまちへ「Meet to Art」プロデュース。



③まち住む「鹿嶋に移住+定住+交流」

鹿嶋に訪れて関係性を深め、第2の拠点or短期移住先として鹿嶋の魅力を感じ、終は鹿島神宮のまちに定住するサポート。



④まちたび「鹿島神宮宵宮詣り昇殿参拝直会饗膳」

夜間参拝から神楽祈祷、直会饗膳まで特別な体験を造成。より深く神道に触れ、鹿嶋の魅力を知る旅行造成を企画する。



⑤まちかし「コワーキング」

仕事から女子会まで、自由に使える街のレンタルオフィス。地元密着の当社事務所兼オシャレなレンタルスペース。



⑥まち舞台「大鳥居ステージ」

鹿島神宮大鳥居横にイベント利用のためにみんなでステージを奉納。鹿島神宮と門前通りを結びつける。



他にも鹿島神宮礼賓館改修計画や空き店舗改修など、まちに必要な活動を相談・提案・事業化・検証している。

第15回 優秀まちづくり賞

歴史的建造物復原による気仙沼市内湾地区の復興まちづくり

和田 裕子

一般社団法人気仙沼風待ち復興検討会



個性的な建物が立ち並ぶ風待ち地区

内湾地区は、宮城県北端の港町として栄えた町で、かつて船乗りたちが船出の風を待ったことから「風待ち地区」と呼ばれています。大正4年と昭和4年の大火により市街地の大半が焼失しましたが、全国からの支援で復興し和洋折衷など様々な形式の個性的な建物が立ち並びました。



風待ち地区の風景

震災前は60棟以上の歴史的建造物が確認されていましたが、津波による被災や防潮堤・嵩上げ工事、公費解体などにより47棟が解体となりました。そのなかで再建された建物は、すべて国登録有形文化財で、再建された8棟のうち2棟は震災後に新たに国登録有形文化財になりました。

約10年かかった復興

震災から約1年後、震災前から活動していた「風待ち研究会」を母体とし「一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会」を設立しました。会は国内外からいただいた資金の受け皿としての役割や、文化財所有者に代わり設計・工事発注などの事業代行の役割を担いました。資金は寄付金や経済産業省のグループ補助金などを組み合わせ、不足分は所有者の自己負担金やクラウドファンディングによりました。

基盤整備や資金の課題などにより、震災から約4年後によく角星店舗の工事が始まり、8棟の復原工事が完了するまで約10年の年月がかかりました。本格的な工事が始まるまでは、津波で流失した建物の曳家や破損した建物の養生などを施し、また被災文化財の復原の意義を伝えたり、寄付を募るためにモニター

ツアーも開催しました。

これまでの歴史的建造物の復興は、再建を支援する制度が段階的に構築されてきていますが、風待ち地区は、津波市街地で歴史的建造物を群として再建した唯一の例となっており、この枠組は熊本地震の復興にも引き継がれています。

風待ちの風景や生業の継承

復原された建物では生業の再開や活用が行われています。これらの取り組みは、建物の復原にとどまらず、震災前の風待ち地区の風景や生業の継承と、災害を乗り越えた新たな港町の歴史の継承に繋がりました。

再建前から継続しているまちあるきでは「けせんぬま遺産」として、文化財建物以外の歴史ある店舗を含めたり、風待ち地区の風景や人々も魅力として伝えるマップを作成しました。昨年度は初めてクリスマスバージョンのまちあるきを開催し、明治時代建築と伝わる気仙沼カトリック教会の見学や、地元の方の協力を得てクリスマスクッキーのプレゼントにもチャレンジしました。



まちあるき（気仙沼カトリック教会）

今年度は、再建された文化財建物を適切なメンテナンスと修理により将来へ継承してくための手引きの作成を始める予定です。活動資金や人手など様々な課題はありますが、小さな工夫を重ねながら取り組み続けることで、少しでも多くの方々に風待ち地区の魅力を伝えていきたいと思っています。